大規模団地における自家用車保有と駐車実態について

大阪大学　工学部　正員　○渡辺千賀恵
大阪大学　大学院　学生員　英比勝正
大阪大学　工学部　正員　毛利正光

1. はじめに

従来、大規模団地の設計においては、駐車場は一般に十分に供給されているとはいえない。空間効率の面からみても、需要を充足させることは困難が大きい。しかし、実際に進行しつつあるマイカー保有に起因する路上駐車現象などは、団地住民全体の問題になっており、独自の調査・研究が必要となっている。本稿は、こうした認識にもとづいて、マイカー保有のかなり進行している大規模住宅団地を事例として、団地内部の駐車問題を考察したものである。

2. 調査・対象地域の概要

堺市・新金岡住宅団地　新金岡校区に対し約1/2の割合で世帯を選びアンケート調査を実施した。調査は当校区の自治連合会と協同でおこなった。回収総数は1937世帯であった。また、路上駐車の実態調査をあわせ実施した。以下の報告はその一部の地区（1つ2番）に関する集計結果にもとづいている。なお、この団地の内部の道路網にはラドバーンが試み採られている。その概略図は口頭発表する。

3. 路上駐車の実態と問題点

この地区の世帯についてはマイカー保有率は43.7%（不明をのぞく）である。しかし駐車場が保有率にみあうだけ整備されてはいないため、マイカーはかなりの部分が路上に駐車されている。実態の詳細は口頭発表する。

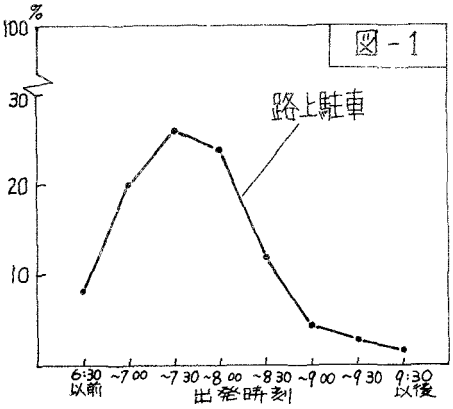
路上駐車に関連してつぎのような一連の問題が発生している。

3-1. 騒音問題

自動車は朝の1時間に集中的に出発する（図-1）。そのため、とくに冬季において、車をフカス音によって睡眠妨害が発生している。

3-2. 道路通行時の危険

路上駐車は運転者に対して、運転のジャマになることとともに、横断歩行者がみえないという不安を与えている。一方、横断歩行者に対しては走行してくる自動車がみえないという不安を感じさせている（図-2、図-3）。



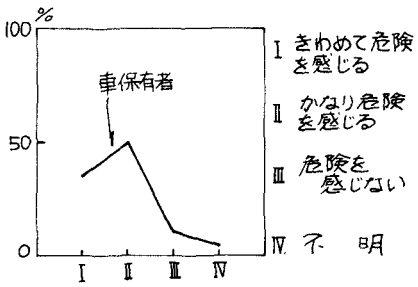


図-2 飛び出しの危険

3-3. 非常時の心配

火事・急病のとき、消防車・救急車などが付近まで入れない心配がでている（図-4）。このとき、マイカー保有者と非保有とで反応にかなりの差異がみられる点には注目する必要があろう。

4. 考察

こうした諸問題は、才1にマイカー保有の進行、才2に駐車場の不足、才3にラドバーン方式が車の集中経路になっていること、などに起因している。このうち車の保有は、図-5からわかるとおり、必要性があってのことと考えられる。また非保有世帯の約20%は車を保有したいと望んでいることからも、保有そのものを減らすには当面困難がある。したがって才2、才3の要因を制御することになるが、その具体的・現実的な方策の一つとして、「団地内乗入れ禁止」規制および「団地外部での駐車場整備」が考えられる。

乗入れ禁止に対する住民の意識としては、図-6のように、「徒歩5分ぐらいのところまで乗入れできるならば」禁止してもよいとする割合がかなりある。団地の外部から徒歩5分（約400m）の圏域にはこの地域の大部分がふくまれる。

ところで駐車場整備はマイカー保有を促進させる心配がある。しかし非保有世帯の約50%が「買いたくない」と応答しているところから、その影響は一定の頭うちをもつと考えられる。

以上から、上記の対策は今後いっそう検討をすすめる必要があると思われる。いずれにしても、都市全体のモータリゼーション方向転換をはかるなかで、当面の対策として過渡的には駐車場整備が必要であると考えられる。

5. おわりに

この調査は、新金岡校区自治連合会との協同調査の形をとった。自治会各位に感謝する次第である。また、終始便宜をはかっていただいた堺市の関係各位に謝意を表する。

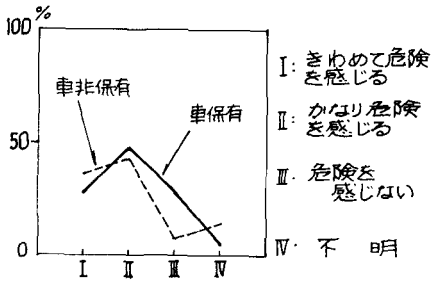


図-3 横断時の危険

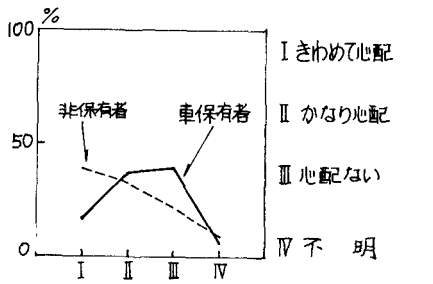


図-4 非常時の心配

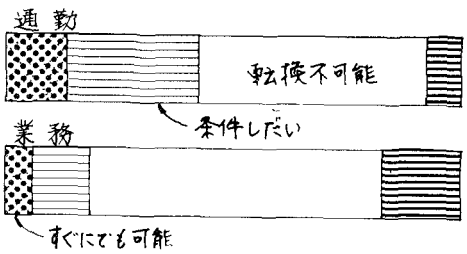


図-5 車からの転換可能性

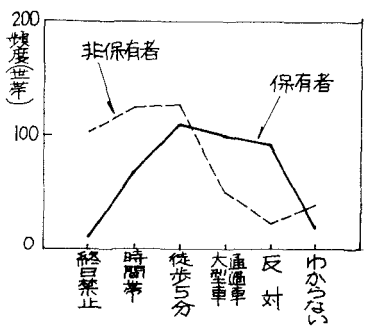


図-6 乗入れ禁止に対する反応